



しおかぜ通信

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



郡築小ホームページ

学校教育目標「自ら学ぶ子供」

R7,7,17 No,14

関係機関と連携した「食育」の推進

6月18日付け「しおかぜ通信NO,9」でお知らせしましたが、今年度、本校は「食育」推進校として、八代市教育委員会から委嘱を受け、「子供たちが『食』に関する様々な経験を通じて、『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる」ことを目的に、学校総体で「食育」に取り組んでいます。

これまでも、郡築小校区婦人会やJA青壮年部、JA女性部、西部給食センターなどの地域の方々のご協力のもと、子供たちに健全な食生活についてお伝えいただいたところです。そして、今回は「株式会社 明治」と「熊本ヤクルト株式会社」のご協力のもとに「食育」を推進しました。

「株式会社 明治」による食育セミナー「みるく教室」(栄養豊富な食品「牛乳・乳製品」を通じて、自然の恵み、仕事、朝食の大切さ、健康な体づくりについて楽しく学ぶプログラム)は、7月14日(月)に、1・2年生を対象に、オンラインで開催されました。

「乳牛について」をテーマにスライドを使いながら分かり易くご説明いただきました。子供たちは、「牛乳が届くまで」「乳牛の一生って?」、「酪農家ってどんな仕事?」について、クイズなどを通して楽しく学んでいました。



「熊本ヤクルト株式会社」による出前授業「おなか元気教室」(「早ね、早おき、朝ごはん、朝うんち」をテーマに、健康のために、正しい食習慣・生活習慣を身につけさせるプログラム)は、7月15日(火)に、5・6年生を対象に、対面式で開催されました。子供たちは、大腸や小腸の長さ、腸内細菌の重さや長さ、母親から生まれるときに腸内細菌をもらっていること、便の色や重さなどで腸内の状態が分かることなどに興味津々でした。そして、健康的な腸の状態に保つ(バナナうんち)ための食べ物や生活習慣などについて学んでいました。



食品会社ならではの専門的な知識を教えていただき、子供たちの学びは深まったことと思います。この「食育」の推進は、今後も継続的に行っていきます。

「子育て」一ロメモ

「自分を疑う」

幼児教育家 はやし浩司

子供に問題があると分かったら、親は、子供をなおそうとする。しかしそういう視点では、子供はなおらない。たとえばよくある例は、親の過干渉、過関心で、子供が萎縮してしまったようなばあい。親は「どうしてうちの子は、ハキハキしないのでしょうか」と言う。そして子供に向かっては、「どうしてあなたは、大きな声でへんじができないの!」と叱る。しかし原因は、親自身にある。それに気づかないかぎり、子供はなおらない。

○郡築小学校のホームページもご覧ください。各学級の様子を知らせるコーナーもあります。
○7月14日(月)発行の「しおかぜ通信NO,12」は、「しおかぜ通信NO,13」に訂正します。

